

2019 MAY

今の  
金沢って、  
好きですか？

# 趣取者都

特別対談

山出 保 × 浦 淳

前 金沢市長

認定NPO法人 趣都金澤 理事長

多様性を可能性の源泉に  
“世界趣都 金沢”へ



SYUTO  
KANAZAWA

# 金沢 幸



世界趣都 金沢2030

実現への12のメソッド

# “世界趣都 金沢”へ

## 多様性を可能性の源泉に



前 金沢市長  
山出 保

1931年金沢市生まれ。'54年に金沢大学卒業、金沢市役所に入る。'87年、金沢市助役に就任。'90年、金沢市長に初当選し5期20年在職。2003年6月から全国市長会会長を2期4年つとめる。'13年、石川県中小企業団体中央会会長に就任。日本建築学会文化賞、日本イコモス賞ほか受賞。フランス共和国レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ章を受章。『まちづくり都市 金沢』（岩波新書／2018年）、『金沢らしさとは何か』（北國新聞社／2015年）ほか著書多数。

## 山出さんが最近言われている金沢の「都市力」と「都市格」とはどういったことですか。

**山出** 「都市力」は基盤整備、人でいえば体力や骨格にあたるハード面。「都市格」は、人に人格があるように、都市にも都市格があるべきという考え方で、文化的な側面で捉えるもの。**「まちづくりに気品を」**とを考えます。先日も講演で話しましたが、金沢では「金沢港の建設」「金沢駅の改造」「環状道路の整備」という3本の柱が「都市力」を高めてきました。三八豪雪（さんばちごうせつ）※を受けて始まった「金沢港の建設」がまちづくりのスタートだったといえます。**浦** 三八豪雪が金沢のまちづくりに影響しているというのは、とても興味深い。当時をよく知る山出さんから詳しくお話をうかがってみたい。**山出** 2階から出入りするほどの大雪でした。豪雪の期間中に知事選と市長選の同時選挙が行われ、知事の公約は、豪雪で輸送が途絶えたことから「北陸自動車道の建設」。市長の公約は、海上輸送のための「金沢港の建設」でした。**浦** 「金沢港の建設」「金沢駅の改造」から50年を経て、温めてきたものが新幹線の開業で随分花開いたと思います。今、私たちが受けている恩恵は、いろいろな方が積み上げられてきたもののおかげだと感じます。**山出** 国の重要港湾としての「金沢港」の建設は、昭和39年（1964年）の御用納めの日に決まりました。年明けから始まった用地買収は、港と「金沢駅」の中間にある国道8号から港までは県が、国道8号から駅までは市が担当しました。面積は460ha。土地区画整理事業で、これほど大規模なものは博多と金沢だけです。1970年の一部開港を行い、それから港湾背後地の形成が進むにつれて人と貨物の動きが生まれました。自ずと駅の西口の整備が必要だという意見が経済界から出てきて、

※三八豪雪：昭和38年（1963年）の1～2月にかけての記録的豪雪。金沢でも積雪量が181cmに達し、陸上交通が途絶した。

出が防げた。港を整備したおかげで、今では大型クルーズ船も来る想定外のチャンスも生まれました。また、宮腰地区（金沢市金石の旧地名）は古い歴史があり、ペイエリア帯には北前船の歴史や、味噌・醤油づくりが盛んな地域、農耕が盛んな地域など、もう一つの金沢の魅力が詰まっています。**浦** 駅の東の兼六園側は伝統的・文化的な地域で、それをいかに守りつつ価値を高めていくかが課題。駅の西側は海側地域と駅西地区を一体的にしながら、若々しさやビジネスなどの新しい創造性が発揮できるまちになれば。金沢はそうした二面性を持つことが大事ではないでしょうか。**山出** 環状道路整備事業の施工面で、間違いなく価値があったことが二つ。一つは事業主体を多様にしたことで、卯辰山トンネルは国が、涌波トンネルは県が、野田トンネルは市が行った。もう一つは、多様な補助メニューを使ったこと。環状道路の整備区域に合わせて道路事業や街路事業、土地区画整理事業の予算を計画的に、効果的に使ったので早く出来た。金沢弁で「はしかい」やり方をしたわけです。**浦** 水野一郎先生が金沢の都市づくりに相当関わられていると言われましたが、都市計画に建築家関わったことにも大きな意味があると思います。**山出** 僕は建築家と話をすると楽しい。だが、難しい。怖い。土木関係の方々は物差しが決まっています。街路樹は何mおきなど、工期を守って注文に応えることを大事にする。建築家は、それぞれ個性をいかに前に出すかを議論する。**浦** 日本のまちづくりは、経済重視で効率性を考えて合理主義的にハード整備をしてきたところが多い。お話から「都市力」の基礎は単に便利さだけでなく、まちの発展基盤をいかに長期的な視点と全体のつながりを考えてつくることが大切だと思いました。こうした50年、100年先を見越して基礎を整える観点を、どう表現したらいいでしょう。**山出** 僕なりに言うと、それは**「都市の可能性」**ではないかな。可能性を引き出し、創り上げていくことだと思う。**浦** 金沢のまちづくりで「都市の可能性」を県と市が共有していたことも素晴らしい。縦割りでバラバラに行うのではなく、想いを共有して分担している。事業を支えた技術者の人たちが、全体の理念、都市の可能性を共有して計画の筋道を引いたので「都市力」につながったのだと思う。**山出** 喧嘩もしたが、酒も飲んだりして仲良くやっています。県と市の関係が密だから、こうした大きなプロジェクトが出来た。このプロジェクトが金沢のまちづくりの基盤をなし「都市力」の源泉になったと思っています。**浦** 公共建築は前提である建設理念がしっかりしていると、これを建てることでまちが変わると実感でき、自然に設計にも力が入る。これは技術者も行政職員も同じではないでしょうか。**山出** 僕が心配していることは、港・駅・環状道路をつくる事業が完成してなくなったこと。そうすると技術者のスキルも、県・市の職員のスキルも落ちないか危惧しています。



## 金沢の「都市格」はいかがでしょうか。

**山出** 「都市格」に関わる仕事として「金沢城公園の整備」「しいのき緑地の形成」「金沢21世紀美術館の誕生」の3本の柱を挙げたい。金沢城の歴史をたどると、侍がいて、その後は軍隊、金沢大学が入り、次に県が国から用地を取得して公園を整備した。**浦** 市長時代、中西知事があるとき言うわけです。「僕（石川県）は城の中を買うから、君（金沢市）は附属の学校跡を買えよ」と。その時は「やりましょう」と言って帰ったが、「市が購入する用地の値段が高い、失敗したか」と思った。しかし、お城の方が修復に時間も金もかかる。中西さんはそこまで考えて言ったのだらうと、結局は進めることに。石川県は大学の土地を購入してお城を復元し、金沢市は大学附属の小中学校の土地に「金沢21世紀美術館」をつくりました。**浦** 私は18歳で大学進学のため金沢を出ました。子供の頃は普通に見えていた金沢が、少しずつ特殊な地方都市という位置づけに成長していることが県外にいても伝わってくる。そして、27歳で金沢に戻ると以前と違う雰囲気を感じました。その後、「金沢21世紀美術館」が出来ましたが、その衝撃は非常に大きかった。金沢は前田の殿様が京都から人を呼んで新しい文化を取り入れ、殖産興業として発展させてきましたが、「金沢21世紀美術館」が現代の新しい文化の源泉を生み出したように感じました。**山出** 「金沢城」の整備事業もあとわずか。「尾山神社」とお城の間に門をつくって橋を架けるほか、「二の丸御殿」を復元する話もあり、この二つが県に残された仕事。「金沢城」と「兼六園」、「本多の森公園」「しいのき緑地」「しいかほ四高記念公園」「金沢21世紀美術館」に「尾山神社」の社叢を加えると合計面積は60haほど。今、日本の地方都市で、真ん中にこれだけの空間を持つちはないと思う。「跡地に何もつくらない」のは、まさに見識。賢明かつ貴重な判断です。県民・市民は絶対に大切にしなければいけない。ここは金沢の「都市格」に関わる言いたい。**浦** **世界に冠たる文化ゾーンになる可能性**を秘めています。「しいのき迎賓館」から「金沢21世紀美術館」「金沢歌劇座」「中村記念美術館」、坂を上がると「石川県立美術館」があり「国立工芸館」も移転してくる。「兼六園」「金沢城」と建設中の「鼠多門」で「尾山神社」までつながる。「石川県立図書館」が小立野に移転した後の跡地も重要です。**山出** 今年の夏、寺町台に「谷口吉郎・吉生記念金沢建築館」が出来るので、この寺町から本多町の「鈴木大拙館」への回遊路も整備していかねばならない。そして「鈴木大拙館」から「本多の森」「金沢21世紀美術館」などへの回遊性。僕は本多通りを重視していて、県立図書館が移転して空いた跡には、ものがない方がいいという論者。何もなければ本多通りから小立野の斜面景観をつくることができ、お城の石垣の景観が本多町へと延長され回遊路の自身が豊かになる。このことで「都市格」をさらに高めた。**浦** 「鈴木大拙館」は建物も素晴らしいが借景も素晴らしい。季節の移り変わりに心打たれる。こども高層マンションの建設構想があったが、建てなかったことで守られたものがあると思います。「石川県立図書館」の跡地に何もつからないということも、大きな意味を持つ可能性があります。

## 50年、100年先を見据えた骨格形成で何が焦点ですか。

**浦** 「趣都金澤」が「世界趣都 金沢2030 実現」への12のメソッド」という提言で掲げた2030年までの間に、2023年には敦賀まで北陸新幹線が延伸し、2025年に「大阪・関西万博」が開催予定。その中で、金沢が北陸のゲートウェイとしての機能を持つ必要があると思っています。なりたいたとか、なりたくないではなく、ここが上手くいかないと日本全国の他の都市も上手くいかないのではないかと。面的に捉えて金沢・福井・富山・能登・加賀といった各々の地域の役割分担がどのように出来るか。さまざまなブランドで売るのでなく、金沢を北陸のゲートウェイとして位置付けていくことを意識した方がいいのではと思っています。**山出** 小松に新幹線が開通することも、金沢や北陸全体に変化をもたらすでしょうね。



認定NPO法人 趣都金澤 理事長  
浦 淳

1966年金沢市生まれ。大阪工業大学工学部建築学科卒業後、大手建設会社を経て'93年に「浦建築研究所」入社。2006年、同社代表取締役就任すると共に、経済人や学識者の仲間と「趣都金澤」を設立し理事長に就任。「/エチカ」代表取締役、「日心企画（大連）有限公司」董事長などをつとめ、建築設計・企画デザイン・各種コーディネート事業などを通じて、北陸の建築・文化の世界発信を目指す。

## 多様性を可能性の源泉にする都市の仕掛けづくりに何が必要ですか。

**浦** 「小松空港」に2019年4月から小松－香港定期便が週2便着き、今後も新幹線延伸を見込んで国際線が複数就航する可能性があります。小松は新幹線の駅から空港まで車で約10分で移動でき、本州日本海側のハブ空港となる可能性もある。「小松空港」が空、「北陸新幹線」と「北陸自動車道」が陸、「金沢港」が海の玄関口として近い立地で県内に揃うことは、金沢が国際都市になるために重要。将来的に国全体の中での役割が出てくるのではと思っています。また、金沢が「もう一つ上の都市格」を目指すときには、多様性をどう盛り込み、担保していくかが大切ですね。**山出** 「世界趣都 金沢」の実現を目指す提言にも「異質なものが組み合わさることは、創造性の源泉」とありました。異文化コラボレーション、多様なものが交わるのが力になるというのは大事にしたい。かつて僕は「多様性は可能性を生む」という言葉を学びましたが、もう一つ**「多様性は可能性を生み、持続性につながる」**と付け加えたい。**浦** 多様性、重要ですね。東京の多様性は、真っ白なキャンパスに自由に絵を描くイメージ。対して、金沢は既に色のついた小さなお椀。そこに、いかに多様性をのせていけるかがキーだと感じています。金沢の特徴は戦争で焼けず、まちの骨格も「都市格」も、蔵のお宝も残ったこと。明治維新までは全国4番目の都市で、前田家によって文化が花開いたまち。そんな金沢でしか出来ない多様性を許容し、可能性を開き続けていく仕組みが大事だと思います。**山出** 僕は多様性のないまちは嫌いだ。例えば企業城下町。ごちゃごちゃしているまちの方が面白い。逆に多様なものがあると面倒かもしれないが、それをクリアしていかないといけない。面倒なことも面白いと思わないといけない。**浦** 精神的な面で「人にとっても優しいまち」「道徳的な観念があるまち」「哲学的なものがあるまち」といった理念のあるまちづくりも必要ではないでしょうか。最近の経済人の議論では、インバウンドに対して必ず「文化的な富裕層を呼ぼう」という話になる。これを私はつまらないと思う。文化好きであれば富裕層でもバックパッカーでも来て欲しい。貧富や人種で分けられない多様性を大事にしたい。**山出** 僕は文化的価値の商品化というのは嫌だな。これは避けたい。**浦** 青年会議所の時代に書いた「趣都・金沢構想」に、「金沢の主幹産業を観光に」という提言を盛り込むように周りから言われました。しかし、金沢のまちの力を高めて、それが巡って観光になる順番でないとおかしいと思いました。「金沢21世紀美術館」は観光スポットになりましたが、美術館の企画が世界でも高水準にあるから、人が集まって来る。これが本物ではないと思われれば、次は来なくなる。金沢の観光も「先に都市格ありき」だと思うのです。

# 世界趣都 金沢2030 実現への 12のメソッド

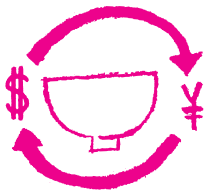
## 1 金沢の意味を更新する 「学びの場」をつくる



あらゆる世代の市民に、広く金沢の文化が浸透していくように、文化とその背景を理解するための「学びの場」をつくる必要があります。文化や知識を活かし、見極めるための哲学を学ぶことが必要であり、そのためには学校のような特定の場で学ぶ知識だけでなく、さまざまな人が、いろいろな場所に、自発的に集い、文化の学びの場を創発していくような土壌をつくるべきなのです。

これまでの主催・共催事業	世界趣都 実現へのアイデア
●金沢みらい工芸部 ●金沢みらい茶会	●加賀前田藩塾 ●金沢版デザインスクール ●リベラルアーツ(教養教育)塾 ●関係づくりのローカル・スクール

## 3 文化の循環のための 「経済的仕組み」をつくる



文化が消費されることで経済的な循環が生まれますが、一方で過度な消費によって文化が消耗していく恐れもあります。ここでいう「文化」は、「芸術文化」だけでなく「生活文化」も意味します。文化の創造を担う「作品のつくり手」の暮らしを持続的に支えるには、作品が売れることも大切ですが、作品が質の高い場で評価される機会を提供することも必要です。日々の生活の中で文化を高めていくことにつながるような「文化の循環」の仕組みをつくることが重要です。

世界趣都 実現へのアイデア
●文化ファンドの構築 ●交流と発表のための文化サロン

## 「文化経済都市」として世界とつながる

## 4 文化資源を 「国際的につなぐ仕組み」 をつくる



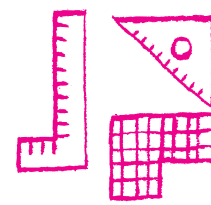
地方都市の国際戦略として、東京に対する周辺部というポジションではなく、直接世界とつながるような、小さくとも何らかの分野の国際的な中心地を目指す方法があります。金沢では、まず「工芸」領域の世界的中心地を目指すことが考えられます。そのためには、金沢独自の工芸などの文化的資源に対する評価軸を培い、価値を発信することが求められます。世界に通用する個性的なマーケットの創出は、創造都市としての機能強化になります。

これまでの主催・共催事業	世界趣都 実現へのアイデア
●KOGEI Art Fair Kanazawa	●世界規模の工芸見本市 ●工芸の研究所/修復工房 ●開放系の文化拠点の形成
	●フューチャー・コレクターの教育 ●KOGEI Art Fair Kanazawaの発展形 ●世界工芸シンポジウム

金沢が目指すべき都市像とはどのようなものでしょうか。人口や経済活動は決して大きくなくとも、日本、さらにアジアの中で、新しい社会モデルの構築に先行し、実験的だが安定した、バランスのとれた豊かさにあふれるまち。世界の都市像をリードし、尊敬されるまち。それが、「趣都金澤」が考える「世界趣都 金沢」の姿です。

## 文化の質を 高める機会を増やす

## 2 「金澤尺度」を 醸成する



加賀藩・前田家が京都や江戸から工芸職人や工人を招聘し、文化が興隆したように、金沢には外部からの技術を受け入れてきた土壌があります。また、「金沢美術工芸大学」の存在は、市民にとって金沢独自の美術・アートに対する寛容性を育んできました。こうした金沢らしい寛容性を再認識し、文化芸術の自立性を尊重・担保しながら質の高いものを育てていく「金澤尺度」を醸成することが必要です。その形成には「まちづくりのためのアート」ではなく、「まちを活用してアートを育てる」という逆転した視点が求められます。

世界趣都 実現へのアイデア
●アーツカウンシル(文化のための独立機関)の設置 ●アーツカウンシルとDMO(観光のための組織)との連携・一体化

## 5 異分野 コラボレーションを 促進する



異質なものが組み合わせることは、創造性の源泉です。コラボレーションのコーディネート人材を育成し、意外な組み合わせを促進することで、創造的な試みを生み出すことができます。異文化/異分野の「人」単位でのつながりは、創造的な試みを生み出します。例えば、食・音楽・工芸がコラボレーションする「趣膳食彩」、工芸作家と建築家がコラボレーションする「工芸建築」展のように、分野を超えて企画していくべきです。そのためには、金沢における人材の可視化を行い、互いに学び、助け合う場所としての「コモンズ(入会地)」をつくるのが、創造的なまちづくりにとって必要です。

これまでの主催・共催事業
●「工芸建築」展 ●21世紀高峯フォーラム 第3回 石川・金沢 ●趣膳食彩

## 趣ある都市空間をつくる

## 6 「都市内自然」と 「静謐」な場を 文化として守る



まちは賑わいだけで形成されているのではなく、空間消費が過剰になる現代では、むしろ意識的に時々まちを休ませる必要があります。例えば、夜のまちを楽しむということは、不夜城をつくることとイコールではありません。賑やかな場所は楽しみつつも、まちの中の静かな場所では、三味線の音や、用水の水音がどこからか聞こえてくるような、自然な静けさも大切にしなければなりません。これが、金沢における都市の成熟であり、「静謐」な場と時間を守るということです。

これまでの主催・共催事業	世界趣都 実現へのアイデア
●金澤さんぽ ●早朝の兼六園曲水音鑑賞ツアー ●プラモリ川	●環境音のマッピング ●観光と日常の間コンサルジュ ●潜在時間を伸ばすためのオープンスペース
	●静けさを活かしたナイトカルチャーの育成 ●夜間・早朝の河川空間活用

## 創造的なコミュニティを育む

## 8 次世代の 「まちづくりの担い手」 を育てる



民間の多様な主体が地域性を考慮して独自のまちづくり事業を提案・実施するケースが増えてきました。こうした「社会的な」民間事業の活力を活かし、今後のまちづくりのあり方を考えていかねばなりません。「まちづくりの担い手」は独立した判断能力を持つ主体として認識される必要があり、NPO自体も新たな力を取り入れて発展するべきです。持続可能であるためには、「これをやりたい!」という想いを実現できる場を設定し、次世代も参加しやすくなるような支援が必要です。

世界趣都 実現へのアイデア
●まちのニュー・メディアづくり ●まちづくりのユースチーム ●「文化工学まちづくり」を議論するアーバン・ラボの形成

## 戦略的に地域が連携する

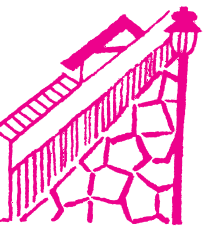
## 11 民間ベースの 「北陸都市間の連携」を促進する



金沢が固有の文化を守りつつ、都市の連携により地域の存在を高めるには、各都市のはっきりした個性を尊重した北陸都市間の連携が必要です。金沢と富山では、加賀藩・前田家が産業の性質が重ならないように各都市に分散させた歴史があります。このように、地域連携の中で都市の個性をより光らせるには、歴史から見た北陸のあり方・つながり方を考えるべきです。自治体間の連携に加えて、NPO間など民間ベースで連携することによって、特定のテーマに基づく複合的な連携が可能になります。

これまでの主催・共催事業	世界趣都 実現へのアイデア
●ツールド日本海ママチャリラリー	●北陸まちづくりサミット ●スポーツ連携 ●広域をつなぐ文化組織

## 7 「秩序ある都市空間」を デザインする



金沢市は景観行政のパイオニアとして、まち並み保全や用水空間の整備、電線の地中化など、地形・歴史・文化的成り立ちから考えて「理にかなった」秩序ある空間デザインを行ってきたことで有名です。これまで蓄積してきた空間資産を大切にしながら、新たに開発・デザインされる建物にも、金沢らしい筋を通った「秩序」を求めていく必要があります。「秩序ある空間デザイン」は、金沢における都市文化の一つであり、住民の誇りを形成し、多くの訪問者を惹きつける貴重な財産であることを再認識する必要があります。

世界趣都 実現へのアイデア	
●「緑と水をつなぐ」金沢らしさの保全 ●デザイン調整機関の設置	●金沢らしい「空間尺度」の共有

## 9 地域と共に 「まちづくりフィールド」をつくる



町会や校下といった地域型コミュニティは、金沢の文化の一つです。まちをよりよくするためには、伝統ある地域型コミュニティと、まちづくりNPOなどのテーマ型コミュニティの協働が必要です。そこでは対話と対等な関係性が重要で、まちづくりNPOは外部視点による気づきの提供、地域人材発掘の仕掛けづくり、やる気のある人の支援など、地域コミュニティの受け皿としての役割も求められます。

これまでの主催・共催事業	世界趣都 実現へのアイデア
●金澤宮遊	●まちづくりの地域コンペ ●身近な公共空間の利活用

## 10 「立場を尊重した」 産官学民連携を推進する



産官学民連携では、それぞれの能力や役割を持ち寄り、協働を通して創造的な試みを進めることができます。立場によって異なる規範や論理をすりあわせ、お互いにより試みとなるように進めることと、文化・価値・立場・能力を尊重して地域協働をコーディネートすることが大切です。

これまでの主催・共催事業	世界趣都 実現へのアイデア
●金澤月見光路	●大学の教育プログラムとの連携 ●民間による「まち空間」占有利活用 ●学術的議論のための小さなスペースの点在

## 12 国内外の地域との 「根拠ある連携」を進める



かつて日本海側は北前船が寄港する港でつながり、交流を通してさまざまな文化を育み、創造してきました。そのような歴史的なつながりは、地域連携の根拠となります。つながりに意味を持たせ、価値のある連携とするには、地域連携の根拠・コンセプトを明確にする必要があります。近隣市町村との連携であれば、河川の流域圏などの地理的要素をコンセプトと捉えたり、遠方であっても、日本海側の文化的で起業家精神の豊かな都市というコンセプトでの連携も考えられるでしょう。

これまでの主催・共催事業	世界趣都 実現へのアイデア
●金沢みなとの文化祭	●文化まちづくりフォーラム ●地域を越えたテーマ型「超・広域」観光接続ルート

このメソッドは「趣都金澤」だけでなく、みんなで実現していくための提言です。

# 「趣都金澤」の活動と取り組み

PICK UP

思考すること、実践すること。「趣都金澤」で積み重ねられた思考から、さまざまなプロジェクトが誕生しました。ここに紹介するのは、その近年の実績の一例です。



## 金沢21世紀工芸祭

「金沢21世紀工芸祭」は、クラフト分野で認定を受けたユネスコ創造都市・金沢市が開催する工芸の振興・発信イベントです。これまで個別開催されていた工芸イベントを集結し、新たなコンテンツを加えて、2016年に初開催。「工芸を遊ぼう」をスローガンに、金沢の街を、工芸の集積・発信地となる「ポート(港)」にすることを目指しています。主催は金沢市、「趣都金澤」は共催としてイベントの企画・運営に全面的に携わっています。

www.21c-kogei.jp



「趣膳食彩」は、料理人と工芸作家による1日限りの宴会。趣(空間)・繕(工芸)・食(料理)・彩(演出)が組み合わさった総合芸術を五感で体験する試み。



金沢らしい風情を残す東山と主計町の町家に、作家とギャラリーが工芸作品を展示する「工芸回廊」。



「金沢みらい工芸部」は子どもから大人まで、幅広い層が参加できるワークショップ。若手の工芸作家が指導する。

## 「工芸建築」展

「建築を、ひとつの工芸として考える」をテーマに、2017年・2018年に「工芸建築」展が開催されました。「工芸建築」とは、「趣都金澤」の委員会の一つ「金沢まち・ひと会議」の議論の中で提起されたコンセプトです。もとは、建築ストックの価値を高めてまちづくりに活かす「工芸的リノベーション」のアイデアと、建築スケールでの工芸の新たな展開という構想から、工芸と建築とを融合させた全く新しいジャンルとしての概念が着想されました。展覧会は、建築家・工芸作家・アーティストなど、異分野の専門家らが、思索と議論を数年間積み重ねてきたコンセプトを形にしたものです。次段階として、まちのなかにリアルな工芸建築を実現することも構想しながら、金沢から「工芸建築」ムーブメントの発信を図っています。

www.kogei-architecture.com



2017年に初開催された「工芸建築」展では、「建築を、ひとつの工芸として考える」をテーマに、9つの作品が制作・展示された。

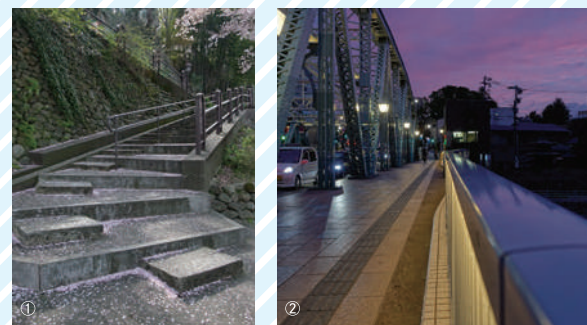


2018年は、前年の実験的試みから規模を拡大し14の作品が制作・展示され、1分の1スケールの茶室も展示された。

## 旧市街の細部、一瞬に宿る 金沢の美を感じる小トリップ

文・写真/モリ川ヒロト(映像・音楽クリエイター)

観光スポットの多彩さの中で見過ごされがちな、「金沢のホントの魅力」と「金沢らしさ」を知ってもらいたいと、数年前から「モリ川ヒロト」が気の向くままに案内する小トリップ『ブラモリ川』を始めた。複雑に次元が入り組んだ「迷宮庭園都市」を思わせる金沢の旧市街を、参加者と共にゆる〜いテーマで歩くというものだ。卯辰山〜浅野川〜小立野台地〜犀川〜寺町台地の複雑な地形を縦断したり、真夏の夜中にお酒を飲みながら歩き回り、夜明けの兼六園で解散したり。スピニアウトで「兼六園曲水音鑑賞ツアー」なども誕生した。金沢がなぜ独自の文化を持つ街なのか、それをさらに発展させ続けられてきたのか。狭い路地や用水が巡る街の構造、変化に富んだ気候が見せる多彩でダイナミックな風景、細やかに移ろう季節の香り。日常の細部、一瞬に宿る美に毎日接することで、金沢の人々に金沢ならではの美意識が育まれる。旧市街そのものが世代を超えて「金沢らしさ」を生み出す「金沢美意識原器」なのだとは思う。



①旧制第四高等学校の生徒たちが名付けた「W板」(正式名は石伐板)は、その名の通りジグザグの階段。石段を踏む度、角を曲がる度に、眺め、音、香りが刻々と変化する。寺町台地と犀川河畔という隣接する異空間をワープする坂。  
②美しい夕暮れの「犀川大橋」。あと数年で架橋から100年を迎える国の登録有形文化財。手前は金沢一の繁華街・片町。現代の茶屋街への「鋼鉄製造い橋」でもある。  
③世界中から多くの来館者を迎える「金沢21世紀美術館」は、それ自身が鑑賞対象でもある。雨の多い金沢で多く出現する曇月とウツリするコラボレーション。



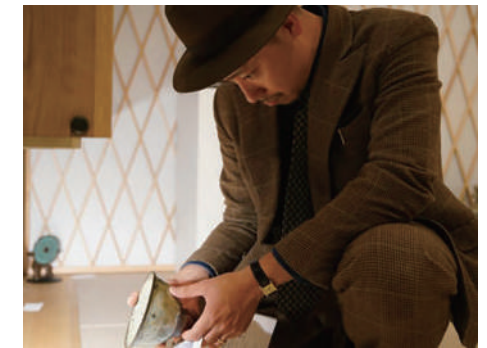
## KOGEI Art Fair Kanazawa

国内唯一の工芸に特化したアートフェアとして、工芸の新しい美意識や価値観を「KOGEI」として世界に発信することを目的に、2017年に初開催。国内外からギャラリーが集結し、新進気鋭の若手から、世界で活躍するアーティストの作品までを展示販売するものです。「KOGEI Art Fair Kanazawa」は、世界の工芸を観て触れる場であり、ギャラリストやアーティストとの刺激的な交流や、新しい「KOGEI」との出会いを得られる機会です。主催は「KOGEI Art Fair Kanazawa実行委員会」で、「趣都金澤」は主管として全面的に携わっています。

www.kogei-artfair.jp



2018年に第2回目の「KOGEI Art Fair Kanazawa」が金沢市上堤町の「KUMU金沢 - THE SHARE HOTELS -」を会場に開催された。



「暮らしにKOGEIをプラスする」をテーマに、国内唯一、工芸に特化したアートフェアとして国内外の25ギャラリーが金沢に集結。国内外のバイヤー、工芸・アートファンの関心を集めた。

## 金沢デザイン会議

2018年に発足した、地域の経済やまちづくりを含む広義のデザインの可能性を議論する場です。さまざまなフィールドでデザインに関わる人、デザインによってイノベーションを起こした経営者や自治体関係者から聞く具体例を参考に、地域社会にどうフィードバックできるか探っていきます。民間主体で、旧来のデザインのジャンルを飛び越えたつながりを生み出す、そんな場を目指しています。

www.kanazawa-dc.design



## COLUMN

### 次世代の活躍の場をつくる U40ユースの取り組み

まちづくりの主体が持続可能であるためには、次世代がまちに関わる支援を行う必要があります。「これをやりたい!」が実現できる場を設定することで、多様な世代がまちに関わることができるようになります。「趣都金澤」では、20~30代の若手会員が中心になって意見交換やトークイベントなどを行い、そこからみずみずしいアイデアや企画が生まれてきています。



## COLUMN

## 金沢みなとの文化祭

金沢ベイエリアにまたがる地域の文化資源を参加者が再認識し、県民の文化意識を向上させ、文化振興を図ることを目的に「趣都金澤」が主催しています。県民に見て参加してもらう機会を提供する「金沢ベイフェス」、金沢港とその周辺地域の文化に触れる機会を提供する「金沢ベイエリアツアー」、石川の文化を知り、文化振興を考える機会を提供する「金沢ベイフォーラム」の3事業で構成。本事業により、文化の裾野の拡大とさらなる高みを目指す取組みに貢献し、豊かな地域文化の継承・発展へとつなげたいと考えています。

www.kanazawa-minato.com



「金沢みなとの文化祭」は、金沢のベイエリア帯をフィールドに開催。



「金沢ベイフェス」の会場「大野お台場公園」。池の上のステージでは、地域で活躍する多様な団体のパフォーマンスが披露された。



「金沢工業大学」の下川研究室による光のテラス「能登町から届いた夜きり花のオブジェ」。幻想的な灯りが夜を彩った。

# 趣都金澤とは

調査・協力/今井未来

「認定NPO法人 趣都金澤」は、「日本一趣深い都市『趣都・金沢』の実現」をキーワードに、金沢の強みである「文化」を機軸とした市民主導のまちづくりを行うNPO(特定非営利活動)法人です。

提言の発信、国内外の文化経済都市の研究、事業の開催等を通じ、金沢市とその周辺地域のまちづくりの推進、人材育成や地域経済の活性化に寄与することを目的とする、プラットフォーム的な役割も担っています。官庁・自治体・大学・経済団体・まちづくり組織・NPOなど、価値を共有する団体との連携・合同・委託事業も展開し、総合的なまちのあり方を考えながらボトムアップでまちづくりを行う活動をしています。

「趣都金澤」の原点は、2004年に「金沢青年会議所」が取りまとめた「自立する地方都市の旗手を目指して一美しき、日本の『趣都・金沢』構想」という経済政策提言書にあります。

この提言書は、社会が量的拡大から質的発展へ変化するなかで、金沢の豊かな文化資源を地域経済に還元し、自立した持続可能な都市をどう創りあげていくかをテーマにしていました。抽象的なイメージだけでなく、「地域経済基盤の確立」と「金沢モデルのまちづくり推進」という具体的な指針を設定し、「金沢は文化を基軸に、オンリーワンの都市を目指すべき」として発信しました。

この理念に共感し、文化経済都市の基盤の上で民間の活力を活かした事業を展開する主体が必要であるという認識を持ったメンバーが集い、勉強会や議論が重ねられました。2006年8月に設立総会が開催され、2007年10月に「趣都金澤」は「NPO法人」として認証されました。それから10年後、2017年7月には、石川県で8番目となる「認定NPO法人」にも認証されています。

「趣都」は、「趣」という「感性」「知性」「文化」の要素に加え、「奥深さ」「情緒」など

の日本的価値観を織り交ぜて創り上げた言葉です。「くびと」を表す「首都」も掛け合わせ、金沢が日本随一の趣深い都市であること、オンリーワンの都市であることを意味しています。

2019年3月末現在で「趣都金澤」には264名の会員が参加しています。経済人、学識経験者、文化人、アーティスト、デザイナー、メディア関係者をはじめ、まちづくりに興味を持つ市民・学生など、幅広い領域・年齢層の多彩なメンバーが活動しています。

## 2019年5月18日 「世界趣都 金沢2030 実現への12のメソッド」発表

2017年11月24日～26日  
KOGEI Art Fair Kanazawa  
※以後、毎年開催

2018年1～12月(コア期間9～11月)  
東アジア文化都市 2018 金沢  
コアイベントの開催に協力

2017年11月7日～11月19日  
「工芸建築」展 ※以後、毎年開催

2017年10月6日～11月26日  
21世紀鷹峯フォーラム 第3回 石川・金沢  
主催の実行委員会に参加

2017年8月  
金沢みなとの文化祭 ※以後、毎年開催

2017年7月26日  
「認定NPO法人 趣都金澤」として認証  
石川県で8番目の認定NPO法人となる

2016年10月13日～2017年2月26日  
金沢21世紀工芸祭 ※以後、毎年開催

2015年12月  
『金沢らしさとは何か』出版(著:山出保+金沢まち・ひと会議)

2013年4月  
金澤宮遊 石浦座 ※以後、2015年まで毎年開催

2011年7月  
ART\_CAFE@尾張町 ※以後、2017年まで毎年開催  
金澤宮遊 復活窪市 ※以後、毎年開催

2009年9月  
交流フェスタ in 能登町 ※以後、毎年開催  
ツールド日本海ママチャリラリー ※以後、2011年まで毎年開催

2008年5月10日  
趣都フォーラム 2008  
「政策提言」を発表  
※以後、フォーラムを会員総会とあわせて毎年開催

2007年～2015年  
金澤月光路  
「金沢工業大学」の産学官および地域連携活動にNPOとして協力  
※イベントは2004年から毎年開催

2007年4月30日  
「趣都金澤」設立記念フォーラム  
「趣都金澤宣言」を発表

2006年8月28日  
「NPO 趣都金澤」設立総会開催

2006年春  
「趣都・金沢構想」実現のための準備委員会が発足  
役員候補者、賛同者への趣旨説明

2004年10月  
「自立する地方都市の旗手を目指して一美しき、日本の『趣都・金沢』構想」  
を「金沢青年会議所」が経済政策提言書として策定

2007年11月6日  
法人設立

2007年10月23日  
「NPO法人 趣都金澤」として認証

2007年2月17日  
趣都塾 ※以後、毎年開催  
(2019年2月に第46回)

2004年10月9日  
「金沢21世紀美術館」  
金沢市広坂に開館

## 趣都金澤の あゆみ

### 「趣都金澤」の委員会 (2018年度)

「趣都金澤」は、思考することと実践することのバランスを重視し、委員会制で多様な事業と議論を並行して進めています。

#### 金沢まち・ひと会議

金沢の真正な価値や将来像を提案。「工芸建築」展、「金沢まち・ひとサロン」の開催、まちづくり提言「世界趣都 金沢2030」策定など。

#### 東京交流委員会

東京在住の「趣都金澤」メンバーが中心となり、金沢の文化を基盤とした交流活動を行う。「金沢識者交流会」などを実施。

#### 地域コミュニティ委員会

隠れた地域資源を発見してコミュニティの活性化に取り組む。「地域課題マップ」づくり、「復活窪市」「金沢デザイン会議」開催など。

#### 新文化エリア創造委員会

「かなざわベイエリア」での新文化の創出・発展を目指す。「金沢みなとの文化祭」「金沢ベイツァー」「金沢ベイフェス」など開催。

#### 文化プロジェクト委員会

「金沢21世紀工芸祭」における「趣膳食彩」「工芸回廊」「金沢みらい茶会」「金沢みらい工芸部」などの企画・運営。

#### 地球を遊ぶ委員会

石川県内外各地の文化、アートを学び体験するツアーを企画。「ブラモリ川」「利賀村ツアー」「歴史と茶の湯ツアー」など開催。

#### 歴史と風土委員会

「趣都塾」から誕生。歴史を軸に金沢の根底に関わる知識を身につけた「究極の金沢人」を目指す。「兼六園サミット」など開催。

#### 会員交流委員会

多様な職種・業種にわたる「趣都金澤」の会員が相互に交流できる場、例会を開催。「夏季納涼会」「12月忘年会」「趣都塾」など。

## 「世界趣都 金沢2030」 実現への12のメソッド



「認定NPO法人 趣都金澤」オフィシャルサイトにて、  
提言の全文をご覧ください [www.syuto.or.jp](http://www.syuto.or.jp)

〈認定NPO法人とは〉

「NPO法人」とは、非営利活動を中心に、さまざまな社会貢献を行う団体で、所轄庁(都道府県・政令市)によって「一定の基準を満たしている」と認証された法人。さらに、その活動が社会から必要とされていることを証明する基準(パブリック・サポート・テスト:略称PST)をクリアすると「認定NPO法人」の認証が受けられます。「認定NPO法人」には、寄付する側・される側の両方に税制優遇があり、一般的な「NPO法人」よりも一層「公益性のある団体」であることが求められます。

### 認定NPO法人 趣都金澤

〒920-0993 金沢市下本多町6番丁40番地1 営業日時/月～金曜 9:00～18:00  
TEL 076-223-3580 FAX 076-223-3581 info@noetica.co.jp

### 会員募集・要項

「認定NPO法人 趣都金澤」では、活動にご参加いただける新入会員・サスティン会員を募集しています。入会希望の方は、WEBサイトおよびQRコードより入会申込書をダウンロードいただき、事務局までお送りください。

### 入会金・年会費

正会員 入会金: 5,000円 年会費: 10,000円 ※年度は毎年4月1日から翌年3月31日です。  
学生会員 入会金: 2,000円 年会費: 3,000円 ※毎年10月以降(下半期)のご入会の場合は、  
正会員のみ年会費が5,000円になります。

### サスティン会員

活動をご支援いただけるサスティン会員も募集しています。金沢の強みである「文化」を機軸とした市民主導のまちづくり事業を推進するための活動を、継続的にご支援いただくための制度です。入会は随時受け付けています。  
期間 1年間(年度:4月1日～翌年3月31日) 会費 5万円/1口 対象 企業、団体、個人